

えいらい

No.45

令和2年10月発行
発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院

秋号
2020



〒790-0067 愛媛県松山市大手町2丁目6-5 TEL／089-943-1151 FAX／089-947-0026
発行責任者／理事長 山本祐司 編集／松山市民病院広報委員会

副院長就任にあたって

副院長 田中 良憲



本年4月から副院長を拝命いたしました。平成21年、当院に着任し消化器内科領域を中心に診療をして参りました。若輩者ではありますが、今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

この原稿を書いている8月現在、新型コロナウイルス感染症は収束の目途がたらず、世界中がこの感染症とどうつきあうか試行錯誤している状況です。このようなときこそ当院の理念に立ち返り、役割を果たしていけるよう努めていきたいと考えております。

具体的には、地域住民のかたに信頼される病院になります。そのためには、先進医療を積極的に取り入れて地域に還元出来る様にしなければなりません。

また、先進医療同様、松山市の救急輪番の責務も積極的に果たしていく必要があります。

内科としては、2018年4月より新しく始まった新専門医制度において、当院は内科基幹型3年目から5年目の専攻医を受け入れています。また、大学の医局や愛媛県下の連携施設とも協力し、研修を進めております。今後もやりがいを感じることが出来る魅力ある病院を目指し、若い先生に選んでもらえる病院を目指していきたいと思っております。

また、近年全国的に女性医師が増加しております。当院でも育児をしながら積極的に職場復帰している先生が増えています。当院は平成24年に院内保育所『えいらいキッズ』、平成29年に病児保育『アイビー』を開園し、環境を整え

ました。しかし、一緒に働く男性医師の協力も不可欠です。解決しなければいけない問題は少なくないと思いますが、今後も女性医師が育児とキャリアアップを両立出来る様になればと考えております。

このことは医師の働き方改革とも深く関わっており、当院理念の「地域社会に貢献する」為には、医師の心と体の健康が大切です。このバランスをうまくとることが、なかなか難しい事のように考えます。一つずつ問題をクリアしながら、その一助を担うことが出来ればと思います。

新型コロナウイルス感染症が収束したのちには、現在の病院を取り巻く環境は変貌していると考えられます。新たな生活様式が言われていますが、病院においても新たな仕事様式が必要になってきました。現在、全国学会はWEBで行われ、研究会・研修会も急速にインターネット上に移行しています。今までは数日間の出張が必要であった全国学会に、積極的に参加出来るようになっております。またオンデマンド視聴で、空いた時間を利用しての勉強も出来るようになってきました。

このコロナウイルス感染症が収束したときにより良い仕事環境となり、また、地域により良い医療を提供出来るようになると思います。

この7月よりスタートした柚木院長の新体制を、微力ではありますが支えています。精一杯頑張りたいと思います。